

ンターを使用しての自動車による探査が1959年より2～3年精力的に行なわれた。そしてここ数年前からまた調査を再開しているが最近特にこの分野における日本の協力が要望されている。昭和44年度においては日韓共同による自動車による放射性鉱物探査が行なわれる予定でありわが国からは動力炉核燃料開発事業団が主体となって協力がなされると聞いている。

韓国の物理探査の現在の最大の課題はやはり大陸棚の探査である。黄海及び済州島近傍の海域の石油ガス鉱床の存在が大きく期待されているので陸上ではあまり多くを望めない同国の現況からその熱意は大きい。

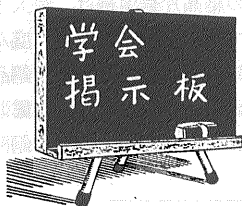
しかしながら海における探査についてはまだまだ技術的に解決を要する問題も多い上に経費的にも莫大なものが必要とされるのが世界的に共通の課題でこの国

独力ではむずかしい問題も多いと察せられる。事実1966年度にはCanadaのHuntec Co.によるSonic調査が国連のバックにより同国の海上において行なわれたのをはじめ外国の協力が海上調査に行なわれて来ているしまた今後の計画にも組まれている。

耳新しいことでは1968年にアメリカと共同で済州島で飛行機による赤外線写真調査が行なわれたことで地下水・温泉の探査が目論まれた。しかし結果はあまりよくなかったとのことであった。

最後に化学科についてであるがここではいわゆる地化学探査の業務と一般分析業務の両方が行なわれている。地下学探査については約5年前からはじめられたとのことで今後の発展が期待されている。

(筆者は 物理探査部)



・日本質量分析学会

1. 昭和44年9月8日(月)～12日(金)
2. 質量分析国際会議
3. 京都市左京区宝池国立京都国際会館  
Tel.(075)791-3111
4. 日本質量分析学会
5. 大阪府豊中市待兼町1-1

質量分析学会国際会議事務局 緒方健一  
Tel. (0727) 61-1381(内線2460)

・日本分光学会

1. 昭和44年5月23日(金)～24日(土)
2. 昭和44年日本分光学会通常総会および講演会
3. 東京都目黒区中目黒2-3-12  
科学技術庁金属材料技術研究所
4. 日本分光学会
5. 東京都新宿区百人町4-400  
東京教育大学光学研究所内  
日本分光学会 Tel. (03) 362-7881

・日本鉱山地質学会

1. 昭和44年5月20日(火)～22日(木)
2. 第16回探査現場担当者会議
3. 機械振興会館 東京都港区芝公園21号地  
Tel. (03) 502-8211
4. 日本鉱業協会 日本鉱山地質学会後援
5. 東京都千代田区内幸町新日比谷ビル  
日本鉱業協会技術部 丸山茂夫 Tel.(03)502-7451

・日本鉱物学会

1. 昭和44年6月4日(水)～7日(土)

2. 日本鉱物学会昭和44年度年会(総会および学術講演会ならびに巡検)
3. 大阪大学産業科学研究所講堂(大阪府吹田市山田上)7日巡検 大阪府二上山周辺
4. 日本鉱物学会
5. 大阪府吹田市山田上  
大阪大学産業科学研究所内 森本信男  
Tel. (06) 878-511

・地学団体研究会

1. 昭和44年8月8日(金)～10日(日)
2. 地学団体研究会第23回総会
3. 北海道大学教養学部 札幌市北八条西  
Tel. (0122) 71-2111
4. 地学団体研究会
5. 札幌市北八条西  
北海道大学教養学部内 地学団体研究会第23回総会準備委員会事務局 Tel. (0122) 71-2111(内線2917)

・第6回国際環境遠隔探知シンポジウム

1. 昭和44年10月14日(火)～16日(木)
2. 環境資源の遠隔探知の分野における研究に関する論文の発表および情報獲得手段解釈および情報処理に関する知識の交換
3. University of Michigan
4. Center for Remote Sensing Information and Analysis
5. Center for Remote Sensing Information and Analysis, Willow Run Laboratories, Institute of Science and Technology, The University of Michigan, P. O. Box 618, Ann Arbor, Michigan 48107, U.S.A.

[注] 1. 開催年月 2. 会合名 3. 会場 4. 主催者  
5. 連絡先(掲載順位は原稿到着順)